

曹洞宗
玉雲山 龍泉寺

法要資料

法事の流れ

- 自宅 | • 御寺

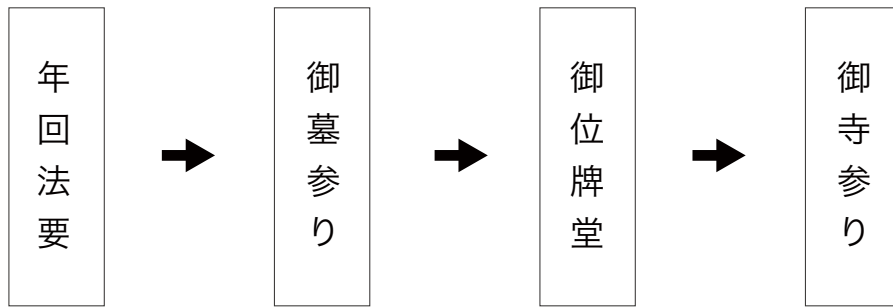
法事のご案内

- 日取りの決定まで
- 案内状の送付
- 服装と数珠について
- 葬儀・法事の表書き
- お寺使用の場合
- 法要に際して
- 年回忌表

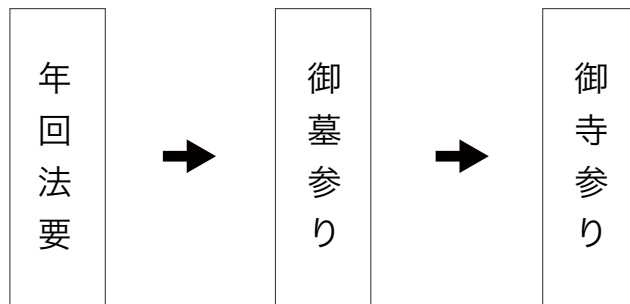
● 塔婆供養申込書

法要の流れ

自 宅



御 寺



法事のご案内

法事とは、本来お釈迦さまの教え、仏さまの心を知ることでしたが、しだいに仏事儀礼、行事、そして故人への供養（追善供養）を勤めることが、一般的に法事と呼ばれるようになりました。したがって供養とは、施主が、仏さまに飲食や花をお供えし、また読経をすることによって、善根（良い行い）の功德を積むことです。

その功德を回向（えこう：たむけること）することによって、ご先祖さまや故人に対し、さらに、全ての生きとし生けるものに感謝の祈りをささげ、あわせて、自分を含むすべてのものが仏道を成就することを願うものです。

心のこもった法事がとり行われるように、施主としての心得を紹介します。

日取りの決定まで

年回法要は、故人の祥月命日に営むのが正式です。

日取りが内定したら、まずは菩提寺に連絡し日程を調整します。

施主家の都合のよい日であっても、寺院のほうで諸行事が予定されている場合がありますので、法事の日取りは菩提寺とよく相談したうえで、決めてください。

案内状の送付

近親者だけの法事ならば、電話連絡だけでもすみますが、故人に縁の深い人びとを招く場合には、案内状を差し出すのが丁寧です。

法事の案内状に定型はありません。案内状のサンプルは龍泉寺にも用意してあります。

服装と数珠について

法事の際の服装は、施主の側は略礼服等を着用するのが一般的です。

また、参列者も華美にならないように心がけ、きちんとした服装で参列しましょう。

そして、施主も参列者も数珠（念珠）を忘れずに持参します。施主は輪袈裟をかけてください。

葬儀・法事の表書き

葬儀や法事に際して、いろいろな表書きがあります。

次に掲げる表書きを参照されるとよいでしょう。

御 霊 前	読 み	用途解説
御 霊 前	ごれいぜん	葬儀に際して故人の霊前に供える金品に使う。
御 仏 前	ごぶつぜん	法事に際して故人の仏前に供える金品に使う。
御 香 典	おこうでん	霊前に香を供えてくださいという意味で使う。
御 香 奠	おこうでん	「御香典」と同様に使う。
御 香 華 料	おこうげりょう	「御香典」と同様に使う。
御 供	おそなえ	葬儀・法要の際、仏前に供える花や菓子、果物に使う。
御 供 物 料	おくもつりょう	「御供」の代わりに添える金包みに使う。
菊 一 輪	きくいちりん	軽小の金包みに使う。菊の花に代えての意。
志	こころざし	通夜、葬儀の世話役などへのお礼に使う。
御 布 施	おふせ	葬儀、法事などでお寺や僧侶へのお礼の金包みに使う。
御 法 礼	ごほうれい	「御布施」と同様に使う。

お寺使用の場合

- 法要は参列者椅子を用意してあります。（椅子総数80脚）
- 控え室は檀信徒会館「玉雲閣」をご利用ください。（冷暖房完備）

法要に際して

法事前日、お寺からお持ちいただいた塔婆は、ご先祖の仏壇に飾っていただきます。

法事前日は、お大夜（たいや）と申します。明日、ご縁をいただき法事をつとめさせていただきますという意味合いから、夕方、ご家族で仏壇にお参りして、お線香をあげ、皆様が召し上がる物と同じ物で結構ですので御膳もあげてください。

自宅にて法事の場合は、年回法要→お墓参り→お位牌堂→お寺参り→食事の流れとなります。

御寺にて法事の場合は、年回法要→お墓参り→お寺参り→食事の流れとなります。

法要中はご一緒にお経を読んでいただきます。

読経は、仏さまの教えを説く声であり、香のかおりが、わが身を清め、そして立ち上る香は、私たちの思いや願いを亡き人のもとに届けてくれるといわれています。身心を正し、心を静め、故人の冥福を祈るとともに、仏さまの心、故人の教えを改めてくみとっていただきたいと思ひます。

ご不明な点がございましたら、遠慮せずに龍泉寺まで連絡ください。

年回忌表

年 忌	二十七回忌
一周忌	三十三回忌
三回忌	三十七回忌
七回忌	四十三回忌
十三回忌	四十七回忌
十七回忌	五十回忌
二十三回忌	百回忌

令和 年 月 日

家 法事

塔婆供養申込書

※全
おて楷書
書き下
さい

戒
名

氏
名

(例)
○○○○信士

戒名又は、

○○家先祖代々諸精霊

佐倉 太郎

個人名・連名(二名まで)

親戚一同・孫一同など